

4) 底質 (粒度組成)

【参考資料 I -42 参照】

評価項目	視点	平成 29 年度の調査結果概要
粒径の変化 の状況	60%粒径の 変化状況	・平成 29 年度は、全体的には大きな変化がなかった。 ・局所的には、③下代瀬・中央で粗粒化、④坂本橋・左岸、⑧佐瀬野・中央、⑬JR 橋梁上流・右岸、⑮瀬戸石ダム下流・左岸の 4 地点で細粒化の傾向が確認された。

- 【粗粒化】③下代瀬・中央 (蛇行部・陸域)：一昨年度に掘削され、従来よりも細粒化した箇所である。粗流化し、過去の変動域内に戻りつつある。
- 【細粒化】④坂本橋・左岸 (蛇行部・水域・平瀬)：蛇行部の内岸側の寄州であり、流速が遅くなるため、細粒分が堆積しやすいと思われる。
- ⑮瀬戸石ダム下流・左岸 (直線部・水域・平瀬)：寄州の凹部であり、流速が遅くなるため、細粒分が堆積しやすいと思われる。
- ⑧佐瀬野・中央 (蛇行部・水域・早瀬)：一昨年度～昨年度の河床低下により、従来よりも粗粒化した箇所である。細粒化し、過去の変動域内に戻りつつある。
- ⑬JR 橋梁上流・右岸 (蛇行部・水域・淵)：寄州の上流端あり、流速が遅くなるため、細粒分が堆積しやすいと思われる。

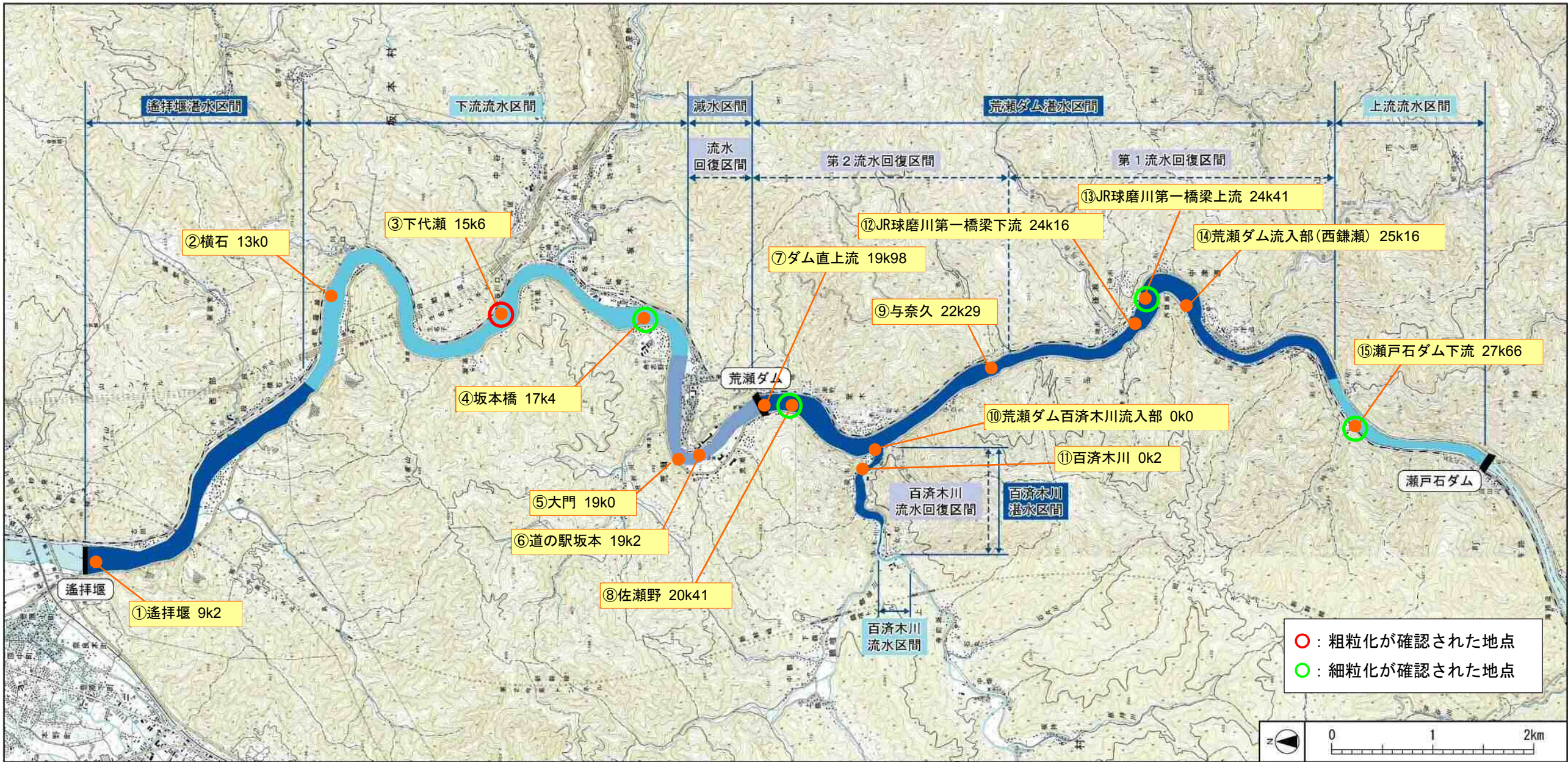
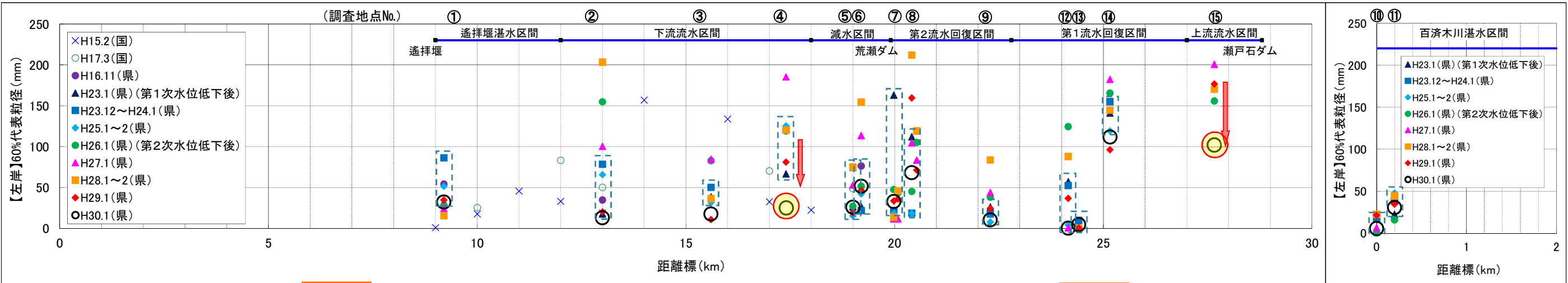
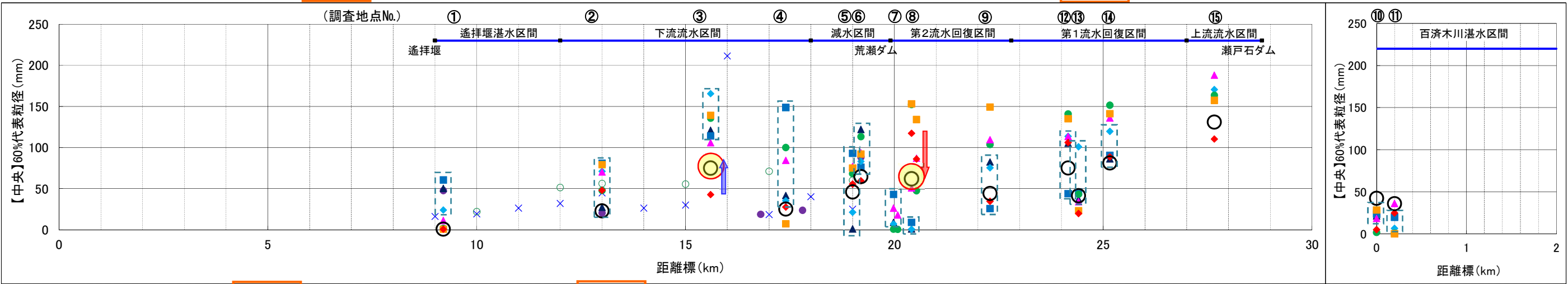


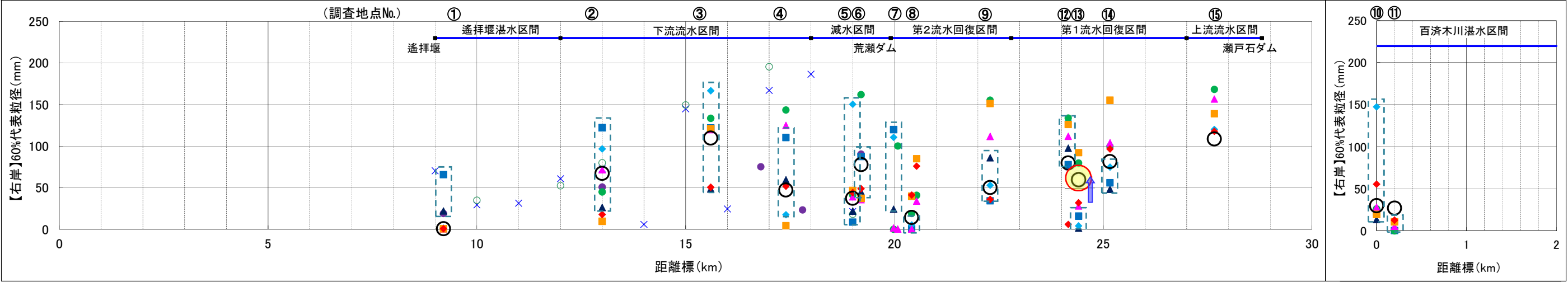
図 底質 (粒度組成) の調査地点 ※この地図は、国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図 (坂本、中津道) を背景図として使用したものである。



【左岸】	①遙拝堰	②横石	③下代瀬	④坂本橋	⑤大門	⑥道の駅坂本	⑦ダム直上流	⑧佐瀬野	⑨与奈久	⑩百済木川流入部	⑪百済木川	⑫JR橋梁下流	⑬JR橋梁上流	⑭西鎌瀬	⑮瀬戸石ダム下流
蛇行部or直線部	直線部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	直線・蛇行	蛇行部	直線部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	直線部
陸域or水域	水域	水域	陸域	水域	水域	水域	水域→陸域	水域	陸域	陸域	陸域→水域	水域→陸域	水域→陸域	陸域	水域
水域の区分	湛水域	淵	—	平瀬	淵	淵	—	湛水域→早瀬	—	—	平瀬	—	—	—	早瀬



【中央】	①遙拝堰	②横石	③下代瀬	④坂本橋	⑤大門	⑥道の駅坂本	⑦ダム直上流	⑧佐瀬野	⑨与奈久	⑩百済木川流入部	⑪百済木川	⑫JR橋梁下流	⑬JR橋梁上流	⑭西鎌瀬	⑮瀬戸石ダム下流
蛇行部or直線部	直線部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	直線・蛇行	蛇行部	直線部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	直線部
陸域or水域	水域	水域	陸域	水域	水域	水域	水域	水域	陸域	水域→陸域	陸域	水域→陸域	水域	陸域	水域
水域の区分	湛水域	淵	—	平瀬	淵	淵	湛水域→早瀬	湛水域→早瀬	—	—	—	—	淵	—	早瀬



【右岸】	①遙拝堰	②横石	③下代瀬	④坂本橋	⑤大門	⑥道の駅坂本	⑦ダム直上流	⑧佐瀬野	⑨与奈久	⑩百済木川流入部	⑪百済木川	⑫JR橋梁下流	⑬JR橋梁上流	⑭西鎌瀬	⑮瀬戸石ダム下流
蛇行部or直線部	直線部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	直線・蛇行	蛇行部	直線部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	蛇行部	直線部
陸域or水域	水域	水域	陸域→水域	水域	水域→陸域	水域	水域	水域→陸域	水域	陸域→水域	陸域	陸域	水域	水域→陸域	水域
水域の区分	湛水域	淵	平瀬	平瀬	—	淵	湛水域→早瀬	—	湛水域→平瀬→淵	平瀬	—	—	淵	—	早瀬

【凡例】

○ : H29 年度 (H30. 1) に過去の
変動域を大きく超えた点